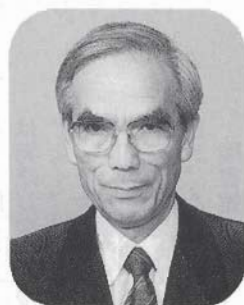


自らを知り、自ら学ぶ

生物生産学部部長 畑中千歳



新入生諸君、入学おめでとう。無限の可能性を秘めた諸君と共に、喜びを分かちあえることを感謝し、心から歓迎の祝意を表す。諸君は今、これから始まる大学生活に、さまざまな思いを馳せて、期待に胸ふくらませていることと思う。大学は、年毎に優れた素質のバラエティーに富んだ新入生を迎えることで、活力を回復する。その意味で、諸君に

かける期待は大きい。今更言うまでもないが、大学は学問の場である。しかし、大学の本来の機能は、いかにも漠然として規定しがたい。学園生活もそうではなからうか。それが実り豊かなものとして受け入れられるか否かは、一人ひとりの日々の心構えによって決まるのではなからうか。「教育は人なり」とよく言われるが、教える者と学ぶ者との間に、心の触れあいが必要ならば、真の教育は成立しない。しかし、人それぞれ個々の天分をもち、一律にはいかない。ある人にとつての良き師が、他の人にとつても良き師であるとは限らない。教える者はつねに学ぶ者と相対的な関係にある。心と心の触れあいがそうであるように、教育のなかの最も重要なことがらは、自ら学びとるものであり、他から与えられるものではないと思う。すなわち、自らを知り、自ら学びとることが、学問における最も大切なことであると考えよう。

新入生諸君が、それぞれ良き友、良き師に恵まれ、より能動的に実り多い学生生活を送られんことを切望する。

未知という名の船に乗って

生物生産学部学生 相良 祐之



新入生の皆さん入学おめでとう。大学生活にもそろそろ慣れ始めた頃だと思えますが、どのような学生生活を希望されていますか。四年間、それは、今君たちが想像しているよりはるかに短いものである。私だつて気が付けばもう四年生。だからぜひ言っておきたいこと、それは時間を大切にしたいということ。せっかく持ちあわせた若き活力、みなぎる血潮、これらを使わない手はない。今の私たちは何でもできるのである。社会がこれまでの数倍に広がるのに伴い、夢がdreamに、現実がますます reality を増し、人生について真剣に考え始める時がくるであろう。だがそれ以上、今まで見えていなかったこと、知らなかった人たちに出逢えるチャンスともなり得るのである。待つばかりじゃダメだ、今すぐ探し出しに行こう。何かに懸命になる姿、澄んだ瞳に輝く笑顔、誰もが美人、好青年になれる可能性を秘めている。

さあ、今から出帆だ!!



新入生歓迎パーティー 教官を囲んで